

## 令和元年度 学生生活実態調査について

調査日時：令和元年 9 月 17 日

調査対象：1 年次生 101 名、2 年次生 103 名、3 年次生 104 名、4 年次生 100 名 計 408 名

調査方法：無記名マークシート方式調査票による調査結果

回収率：1 年次生 76 名（75.2%）2 年次生 62 名（60.2%）3 年次生 78 名（75.0%）

4 年次生 67 名（67.0%）学年未記入 42 名 合計 325 名（79.7%）

### I 生活のお金に関すること

#### 1. 奨学金について

##### 1) 奨学金の有無とその内容（Q1, 2）

奨学金を受けている学生は 52%、受けていない学生は 48%であった。

この値は、昨年度に比べ増加している（H30 年度 38% 参考）

また、複数の奨学金を受けている学生が全体で 7%（23 名）いた。

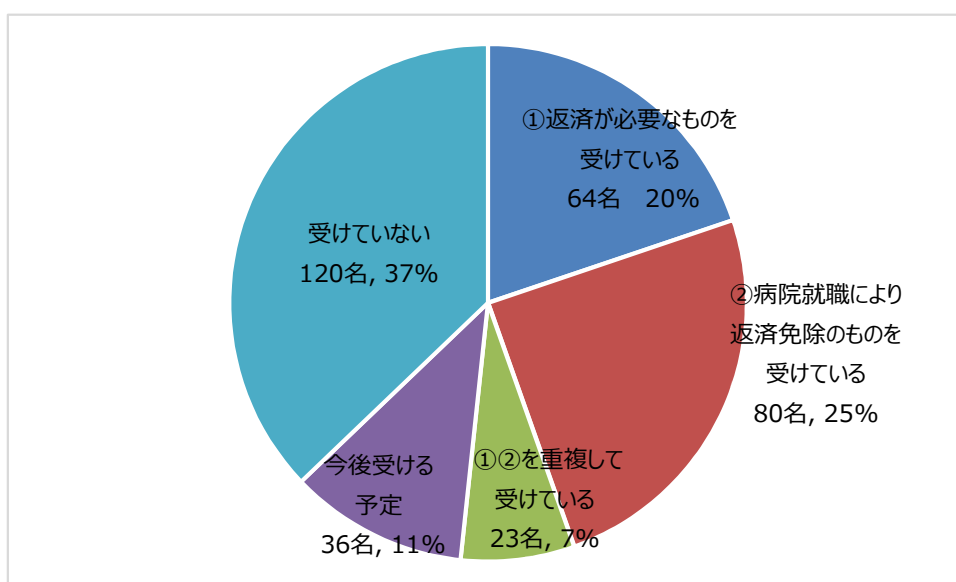


図 1 現在、奨学金を受けているか

##### 2) 奨学金を受ける主な理由（Q3）

奨学金を受ける主な理由は、学費のためが最も多く、次いで就職しようと思っ  
ている施設から受けられるため、生活のためであり、その傾向は昨年と変わらな  
かった。

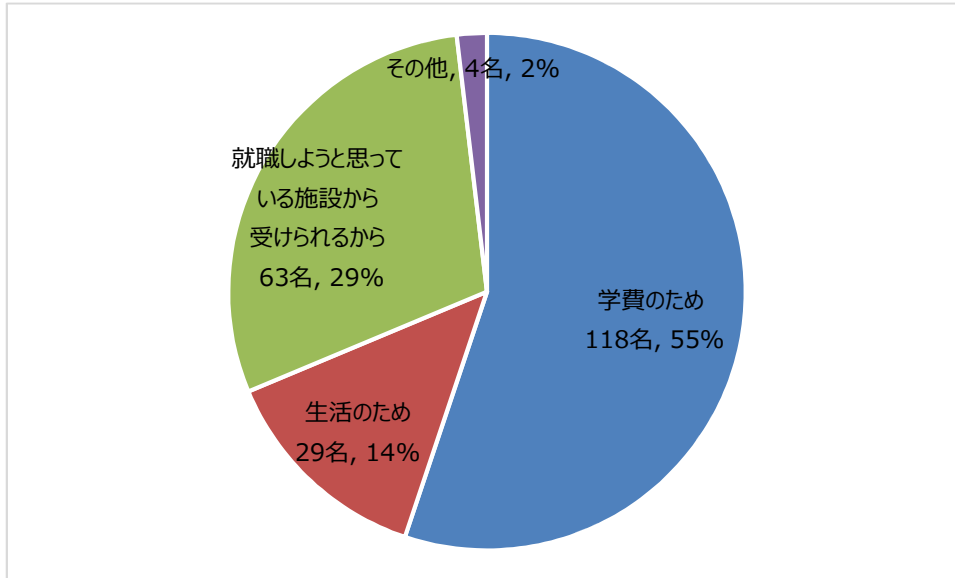


図2 奨学金を受ける主な理由

## 2. アルバイトについて

### 1) アルバイトの現状 (Q3～7)

全体の9割の学生が何らかのアルバイトをしていた。アルバイト日数は2～3日が全体の約6割であった。1週間のアルバイトの時間は20時間未満が75%であり、この傾向は例年と変わりなかった。

アルバイトの収入の目的の第一位に学費と挙げている学生が全学年で10名(3%)おり、その数は昨年の8名に比べ微増している。

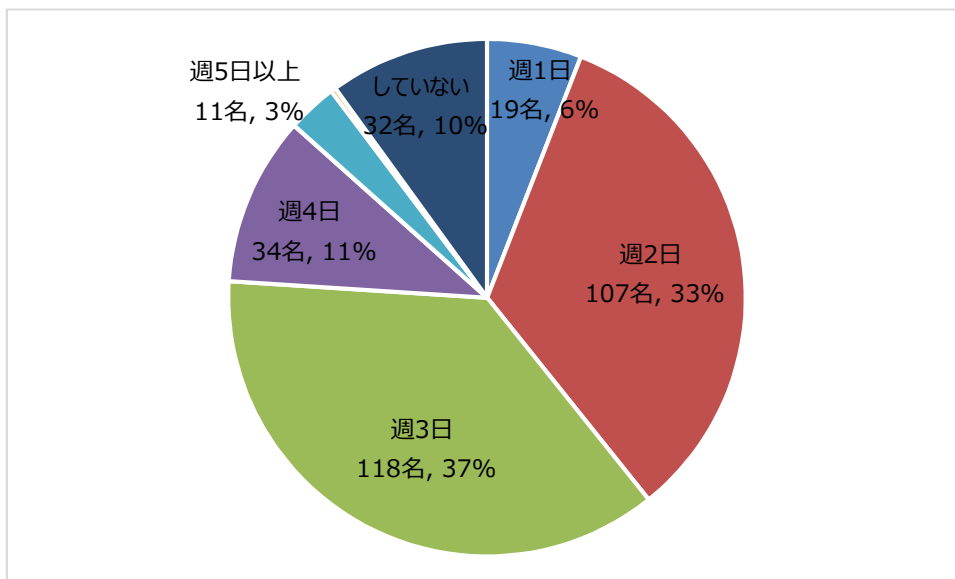


図3 1週間のアルバイト日数

### 3. 生活困窮について

#### 1) 生活が経済的に苦しいと感じているかと学業への影響 (Q8~9)

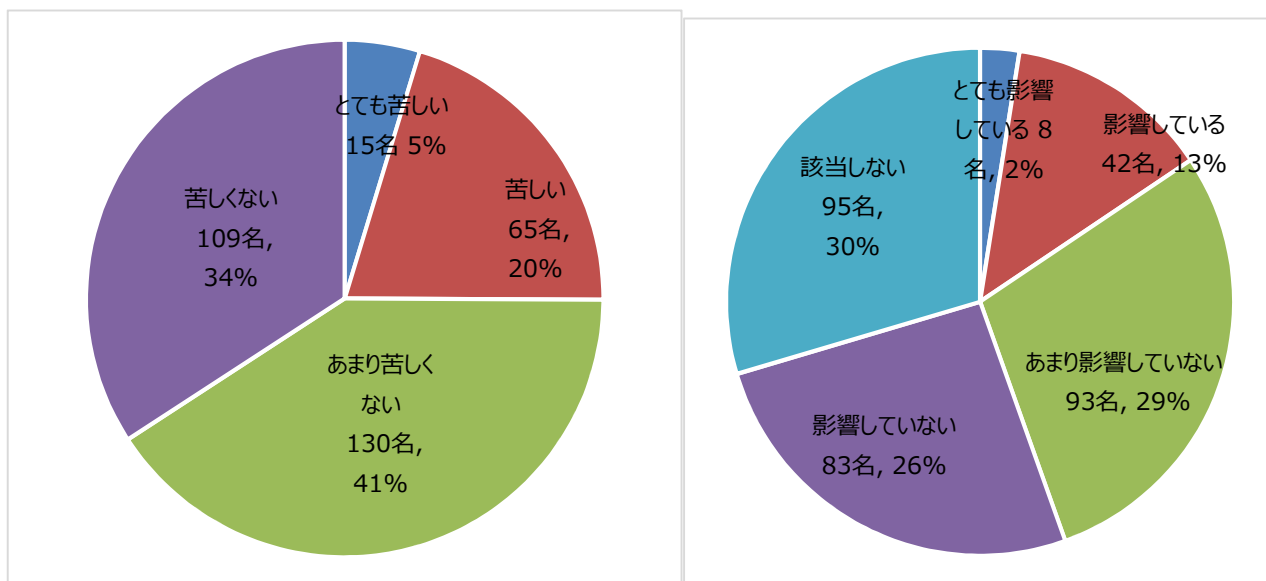


図4 生活が経済的に苦しいと感じているか 図5 経済的問題の学業への影響

## II 学修状況について

### 1. シラバスの確認状況 (Q10)

学生の88%がシラバスの確認を行っていると回答し、その値は昨年度の77%より上昇した。

### 2 シラバス内の準備学修(予習・復習)の認知度と学修状況 (Q11)

ほとんどの学生がシラバスに準備学修(予習・復習)が明記されていることを認知していた。しかし、知っている学生でも明記された学修を行っている割合は、半数にも満たなかった。

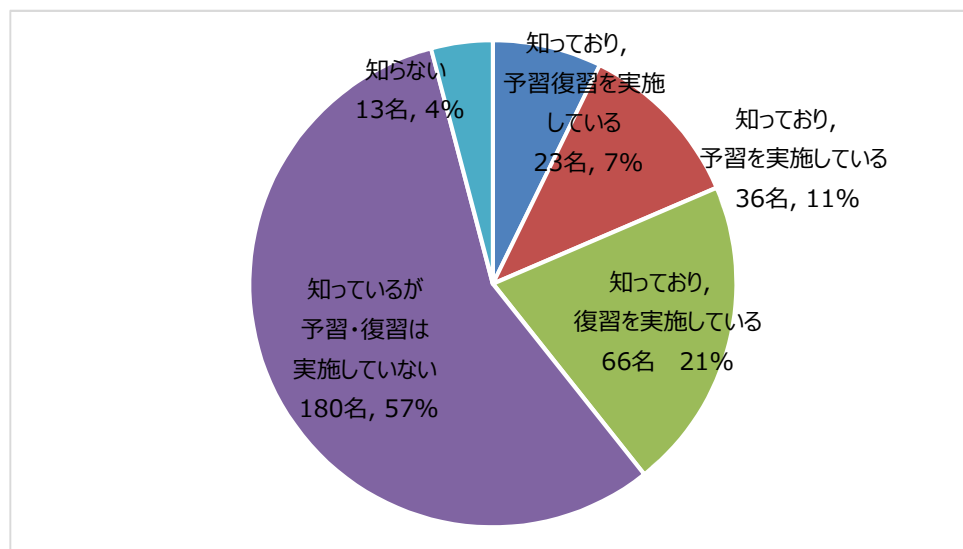


図6 シラバスに準備学修が明記されていることの認知

### 3. 課題と対策

シラバスの確認についてガイダンス等で周知を行い、ほとんどの学生が認知していた。しかし、明記された準備学修についての学習状況は全学生の半数程度であった。今後は、詳細な準備学修課題の明示やe-ポートフォリオを活用した学習状況の確認と指導の体制が急がれる。

## III 学生の気持ちに関すること

### 1. 不安や悩みについて

#### 1) 不安や悩みの有無 (Q16)

学生全体では約半数が不安や悩みがあると回答した。学年別では3学年次に不安があると答える割合が高く、背景には後学期から本格的にスタートする領域別実習が影響していることが推察される。

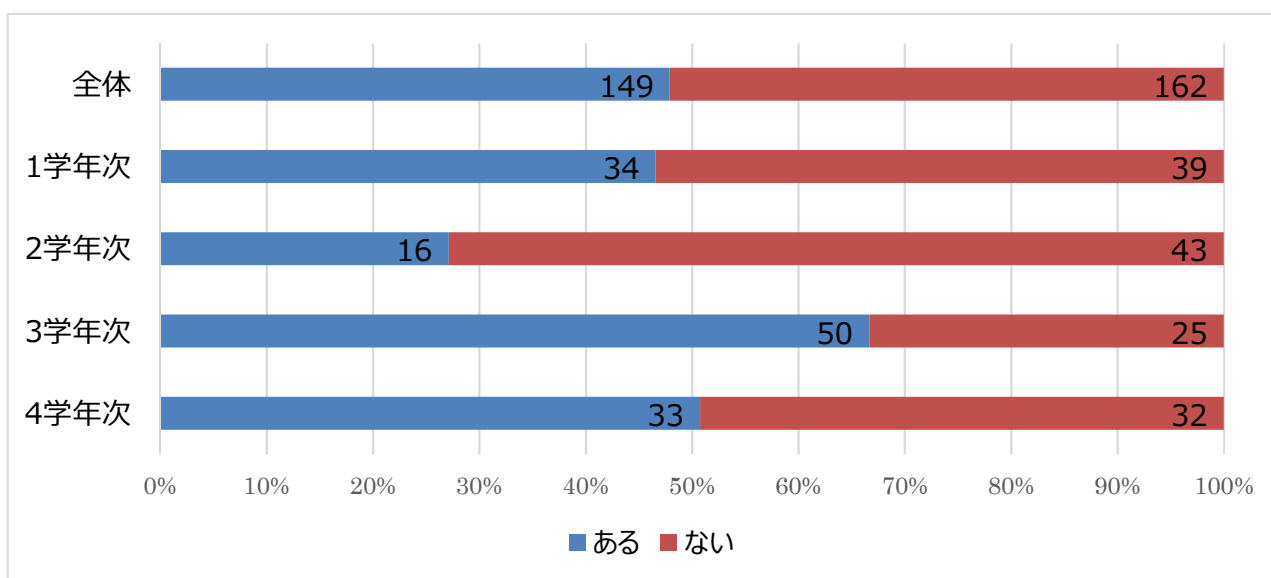


図7 不安や悩みの有無について

#### 2) 不安や悩みの内容

学生全体では、不安や悩みとして第1位に挙げられた内容は、「学業について」、次いで第2位は「就職や将来の進路について」、第3位は「友人などの交友関係について」であった。このほか「経済的な問題」、「看護職への適性」についての悩みを挙げていた。学年別では3学年次の不安の多さが課題であった。

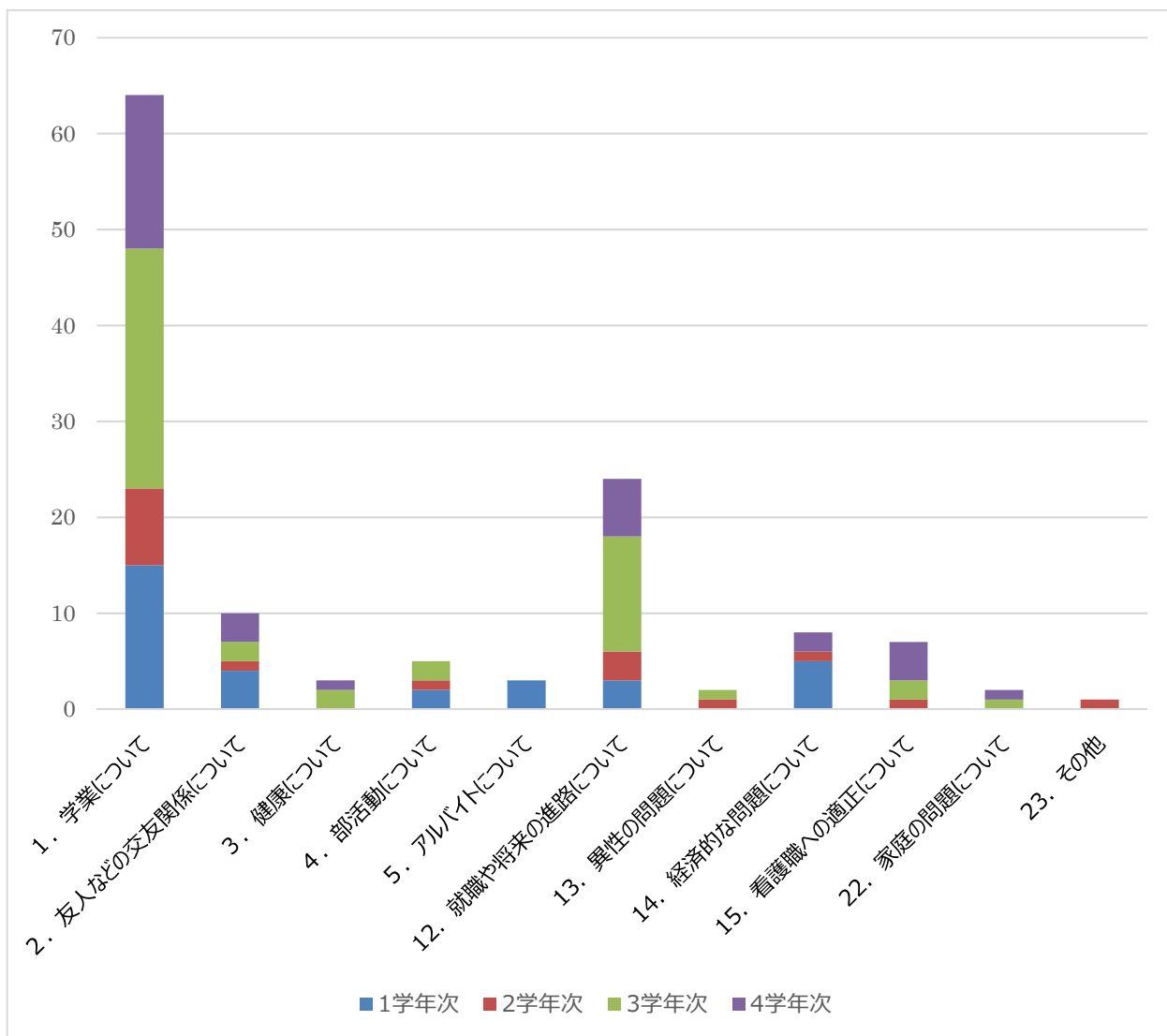


図 8 不安や悩みの内容